**念ずれば花ひらく**

念ずれば花ひらく

苦しいとき　母がいつも口にしていた

この言葉を　わたしもいつのころからか

となえるようになった

そうしてそのたび

わたしの花がふしぎと　ひとつひとつ

ひらいていった

**二度とない人生だから**

二度とない人生だから　一輪の花にも

無限の愛を　そそいでいこう

一羽の鳥の声にも　無心の耳を　かたむけていこう

二度とない人生だから　つゆくさのつゆにも

めぐりあいのふしぎを思い

足をとどめてみつめていこう